

## 薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2010年12月）

### 【医薬品一般】

Q：医薬品名に徐放型や長時間作用を示すアルファベットのRやL等がついているが、何の略か？（薬局）

A：CRは Controlled Release, Rは Retard, SRは Sustained Release または Slow Release, TRは Time Release, LまたはLAは Long Active。

Q：アンダーーム<sup>TM</sup>軟膏が発売中止になったのはどうしてか？（一般）

A：非ステロイド性抗炎症薬のプフェキサマクを成分とする軟膏・クリーム（アンダーーム<sup>TM</sup>軟膏等）について、本剤の副作用の接触皮膚炎の発現リスクは治療上の有益性を上回り、またアトピー性皮膚炎等においては接触皮膚炎によりかえって症状が悪化することがあることから、2010年4月に欧州医薬品庁（EMA）が欧州全域に対して本剤の製造販売承認の取り消し勧告を行った。さらに、処方医師に対しては処方中止と代替薬の使用を、患者には適切な代替治療へ変更してもらうように主治医への相談を勧告した。日本における過去3年間の重篤な接触皮膚炎に関する副作用報告は7件だが、欧州での規制状況や代替医薬品があることを考慮し、予防的な対応として、メーカーが自主的に販売中止を決定した。

Q：低用量ピルで、最近薬価基準に記載された新薬はあるか？（病院薬局）

A：ルナベル<sup>TM</sup>配合錠とヤーズ<sup>TM</sup>配合錠があり、一相性で後者は超低用量ピルと言われている。

商品名 （会社）	ルナベル <sup>TM</sup> 配合錠 （日本新薬、富士製薬）	ヤーズ <sup>TM</sup> 配合錠 （バイエル）
薬価基準収載	2008年6月	2010年9月
成分 （1錠中）	ノルエチステロン1mg エチニルエトジオール0.035mg	ドロスピレノン3mg エチニルエストラジオール 0.020mg
適応	子宮内膜症に伴う月経困難症 機能性月経困難症	月経困難症

Q：気道分泌促進薬のピソルボン<sup>TM</sup>を消化器系の疾患に使用することはあるか？（薬局）

A：ピソルボン<sup>TM</sup>（ブロムヘキシシン塩酸塩）の粘液溶解作用は、気道以外の外分泌腺にも働き、特に腺組織に特異的に集積する。気道と同様に腺臓に対しても、腺管内に停滞する粘液を溶解し、粘液蛋白質濃度や腺液粘稠度の上昇を抑え、腺液の排出を促進する作用を有することを期待して、アルコール性慢性膵炎や粘液産生膵腫瘍等の膵炎発作の予防に使用される（保険適応外使用）。

Q：注射剤の薬液の実容量は実際の表示量より多く充てんされているが、輸液用注射剤の容量の目安は決められているか？（病院）

A：第15改正日本薬局方の製剤総則、注射剤の項で、「薬液は、別に規定するもののほか、注射剤の採取容量試験法に適合する」となっている。「採取容量試験法」とは、表示量よりやや過剰に摂取できる量が容器に充てんされていることを確認する試験法で、通常、表示量を投与するのに十分な量の注射液が充てんされており、過量は製品の特性に応じて決まる。輸液用注射剤は、容器1個をとり、測定しようとする容量が40%以上となる乾燥したメスシリンダー中に全内容物を排出し、容量を測定した時、製剤の採取容量は表示量以上である。

### 【安全性情報等】

Q：高眼圧で内服薬のダイアモックス™と点眼薬が処方されたが、ダイアモックス™は長く使わないので中止すると言われた。なぜか？（一般）

A：炭酸脱水酵素阻害薬のダイアモックス™（アセタゾラミド）は房水産生を抑制して眼圧を下降させるが、比較的全身性副作用（手指・口唇等のしびれ、頻尿・多尿、食欲不振、血清カリウム値の低下等）が強く、主に緑内障の急性発作等の即座に眼圧を下降させる必要がある場合に用い、長期投与はしない。同効薬で副作用が少ない点眼薬のトルゾラミド（トルソプト™）やプリンゾラミド（エイソプト™）が市販されており、眼圧下降の第2選択薬として用いられている（第1選択薬はプロスタグランジン関連薬）。

Q：かぜで咳止めに濃厚プロチンコデイン液をもらったが、便秘するのか？（一般）

A：濃厚プロチンコデイン液は、末梢性の鎮咳去痰薬である桜皮エキス（プロチン）と中枢性の麻薬性鎮咳薬コデインリン酸塩水和物の配合剤である。後者は、腸管ぜん動運動の抑制による止瀉作用も有することから、副作用として便秘が起こることがある。

Q：ドグマチール™を服用したらお乳が出てきたので中止したら止まった。服用を再開したら、またお乳が出るだろうか？（一般）

A：ドグマチール™（スルピリド）の抗ドパミン作用により、乳汁分泌を促進するホルモンのプロラクチン値が上昇することがある。その結果、乳汁分泌が起こるので、服用を再開するとまた起こる可能性がある。

Q：石膏ボードの壁に穴があき、5歳児が穴の中の石膏を少量食べた。口の中のものは吐きだしたが、処置は？（その他）

A：石膏の主成分は硫酸カルシウムでほとんど無毒である。大量に食べた場合、腹痛や物理的な腸閉塞等が起こる可能性がある。少量の場合は、口をすすいでコップ1～2杯の水を飲ませて様子を見る。

## 【健康食品】

Q：赤ワインに含まれるレスベラトロールとは？（薬局）

A：レスベラトロールはブドウやベリー、プラム、ピーナッツなどの多くの植物の果皮に含まれる成分で、ポリフェノールの一種で抗酸化物質である。1997年に抗がん作用が報告されて以降、抗痴呆作用や寿命延長作用、アンチエイジング作用、血栓防止作用、心保護作用等、多くの研究が進められている。

## 【行政・保険】

Q：処方せんの書き方で、内服薬は1回量を書くように変更になったのか？（薬局）

A：「内服薬処方せん記載方法のあり方に関する検討会報告書の公表（周知依頼）」〔厚生省医政局長・医薬品局長通知（平成22年1月29日）〕において、分量については1回量を記載することを基本とすると提案され、内服薬処方せんの記載にあたっては参考にするよう示されているが、変更にはなっていない。厚労省保険局医療課長通知（昭和51年8月7日保険発第82号、最終改正：平成22年3月6日保医発0326第3号）において、処方せんの記載上の注意事項は次のようになっている。

分量は内服薬については1日分量を、内服用滴剤、注射薬および外用薬は投与総量、頓服薬は1回分量を記載する。用法および用量は1回あたりの服用（使用）量（実際には省略されているのが実態）、1日当たりの服用（使用）回数および服用（使用）時点（毎食後、毎食前、就寝前、疼痛時、〇〇時間毎等）、投与日数（回数）ならびに服用（使用）に際しての留意事項等を記載すること。

Q：領収証を交付した患者から紛失したので再度の交付を求められたが、再交付しなければならないか？（薬局）

A：義務はないが、再交付する場合、不正利用を避けるためその領収証が再交付であることがわかるようにしておく。